

対象年度		令和 2年度		総合計画実施計画策定及び行政評価シート												
事務事業名		観光協会支援事業						予算事業名		観光振興事業費						
予 算 科 目		会計	01	款	項	目	事業	要求区分								
				07	01	05	1101	経常経費	根拠法令							
総合計画体系		3歴史と自然を育む活力あるまちづくり(産業)							事業の区分		主要事業					
		3-4地域資源を活用してにぎわいと交流を促進する観光の振興（観														
		②観光振興体制の充実							担当課係等		商工観光課					
1観光振興事業							観光係									
事業期間		継続（ 年度～ 年度）														
【めざす姿（意図・どのような状態になるのか）】								【事業開始のきっかけや他市の状況など】								
観光協会が行う事業を支援することにより、本市の観光振興と交流人口の増加が助長され、市内事業者の収益増など地域経済の活性化が図られることを目指す。								昭和46年9月1日に観光協会会則が制定され、同協会が発足している。事業収入のある協会においては法人化している地域もあるが、観光収益が少ない自治体では本市と同様な状況にある。								
【手段（事業内容・どのようなことを行うのか）】								【対象（だれに対して・何に対して行うのか）】								
観光協会が行う観光誘客事業（祭事、観光PR等）に対して財政的支援を行い、観光振興等を図る。 主な催事 ・さくら祭り ・夏祭り ・結城盆踊り大会 ・祭りゆうき ・インターハイ								結城市観光協会								
								【事業をとりまく環境の変化】 東京オリンピックの開催を含め国の施策としても訪日外国人の観光誘致が喫緊の課題となっている。また「稼げる観光」を目指して各地では日本版DMOの設立なども進められている。 本市においてもこれらの流れを勘案し、観光協会の在り方、また、市庁舎の移転後の北部市街地の在り方などを検討するため、平成30年度に商業観光振興計画を策定したところである。								
【令和 2年度 事業内容】				【令和 3年度 事業内容】				【令和 4年度 事業内容】								
商業観光振興計画に基づく事業の推進。 ・インターハイ対応経費（ブース運営経費） ・QRコード観光ガイド事業実施				商業観光振興計画に基づく事業の推進。 ・QRコード観光ガイド事業実施 ・観光商品開発・仕入れ貸付金				商業観光振興計画に基づく事業の推進。 ・観光商品開発・仕入れ貸付金								
■事業費																
				H30年度		R01年度										
財源内訳	国庫支出金			0		0										
	県支出金			0		0										
	地方債			0		0										
	その他			0		0										
	一般財源			7,800		8,200										
歳入計（千円）				7,800		8,200										
歳出内訳	節（番号＋名称）				金額（千円）		金額（千円）									
	19 負担金補助及び交付金				7,800		8,200									
歳出計（千円）（A）				7,800		8,200										
伸び率（％）						5.12										
備考	総合計画107ページ 予算書132ページ															

平成30年度行政評価シート

■指標

種類	指 標 名	単 位		H30年度	R01年度	R02年度
活動 指標	イベントの開催	回	目標	5.00	5.00	5.00
	観光協会主催の祭事実施回数（ワッペーラン、駅からハイキング等小規模祭事は除く） ※さくら祭り、夏祭り中日、盆踊り大会、祭りゆうき、きものday結城		実績	0.00	0.00	0.00
	観光キャンペーン活動回数	回	目標	15.00	15.00	15.00
	国、県、企業等が主催する観光キャンペーンや催事に観光大使を派遣し、観光PRを実施した回数（都市間交流及び結城ブランド産直市を除く）		実績	0.00	0.00	0.00
成果 指標	イベント入込客数	人	目標	80,000.00	80,000.00	80,000.00
	観光協会主催の祭事入込客数（ワッペーラン、駅からハイキング等小規模祭事は除く） ※さくら祭り、夏祭り中日、盆踊り大会、祭りゆうき、きものday結城		実績	0.00	0.00	0.00
			目標	0.00	0.00	0.00
			実績	0.00	0.00	0.00

■事業評価

必要性	事業の必要性	A 必要性は高い	観光振興計画を推進していく上では、観光協会を支援し運営育成していくことは重要である。
妥当性	実施主体の妥当性	C 見直す必要がある	将来的に観光協会が自立運営できるようにしたい。
	手段の妥当性	B どちらとも言えない	
効率性	コストの効率性・人員効率	C 改善の余地はある	イベントの再編等見直しが必要である。
公平性	受益者の偏り	B どちらとも言えない	
有効性	成果向上の余地	B どちらとも言えない	
進捗度	事業の進捗	A 順調である	
総合評価 上記評価を踏まえて事業全体について評価し、問題点・課題等を指摘してください			
観光協会運営については、イベントごとに実行委員会を立ち上げて実施している。事業ごとの見直し、イベントの統合等再編など検討していく時期ではないかと思う。			
対応策提言等 この事業を今後どのように改善・改革をしていきますか			
役員・理事等と相談し運営や経営を見直し、「稼げる観光」を目標としたうえで自立できるよう支援していく。			

■方向性

1 次評価（1 次評価者として判断した今後の事務事業の方向性（改革・改善策）） ☐ 拡充（人・モノ・カネ等の拡充） ☒ 改善改革しながら継続 ☐ 現状のまま継続（改善・改革なし） ☐ 統合・新規事業への展開 ☐ 縮小 ☐ 休止 ☐ 廃止・終了	
改革・改善の具体的内容（改革案・実行計画） 商業観光振興計画を計画的に実施するためには観光協会事業で弾力的な事業を行う必要がある。イベントに偏った運営を見直し、DMOや法人化についての準備を進める。	
2 次評価（2 次評価者として判断した今後の事務事業の方向性（改革・改善策）） ☐ 拡充（人・モノ・カネ等の拡充） ☐ 改善改革しながら継続 ☐ 現状のまま継続（改善・改革なし） ☐ 統合・新規事業への展開 ☐ 縮小 ☐ 休止 ☐ 廃止・終了	
企画調整会議の意見・考え方（1 次評価者と同じ場合も記入） 上記評価のとおり。	